

橋梁技術発表会 及び 講演会

ライブ配信予定!!

開催概要

日時	令和8年10月16日(金) 13:00~16:15
会場	ドンセンター 7Fホール 大阪市中央区大手前1-3-49
申込	https://www.jasbc.or.jp/ ※申込はWebサイトのみです。
申込受付期間	8月3日~10月9日
継続教育	—
資料	会場では配布いたしません。必要に応じて Webサイトより出力し持参願います。 10月9日掲載予定

《開催日一覧》		
地区	開催日	申込締切
東京地区	10/02(金)	09/25(金)
大阪地区	10/16(金)	10/09(金)
北海道地区	10/23(金)	10/16(金)
中部地区	11/06(金)	10/30(金)
東北地区	11/17(火)	11/10(火)
九州地区	11/27(金)	11/20(金)
(6地区開催ですが発表テーマは異なります)		



開会	13:00~13:05	開会の辞	(一社)日本橋梁建設協会 副会長 中村 譲
第一部 技術発表	13:05~13:40	技術発表(1) 令和7年道路橋示方書による単純合成鈑桁の設計例 ~耐荷性能の評価を中心に改定の主なポイントについて~	設計小委員会
	13:40~14:15	技術発表(2) 耐候性鋼橋の現状と今後の展望 ~LCCに優れ、環境負荷を低減できる橋として~	製作小委員会
	14:15~14:25	休憩	
	14:25~15:00	技術発表(3) 城陽西高架橋における工事途中の4車線から6車線への計画変更に伴う架設計画の変更対応 ~吊ビーム設備を用いたハンガーエレクション工法による鋼床版桁の拡幅施工~	架設小委員会②
	15:00~15:10	休憩	
第二部 特別講演	15:10~16:10	(調整中)	株式会社FM802 FM COCOLO DJ 尾上 さとこ
閉会	16:10~16:15	閉会の辞	橋梁技術発表会 実行小委員会 委員長 本田 政樹

発表概要

【技術発表(1)】

2025年10月に改定された道路橋示方書(R7道示)について、主にⅡ編(鋼部材・鋼上部構造編)の変更点と、それに対応した設計計算例を報告します。今回の改定は新しい形式に対しても適切に性能を評価するための枠組みを充実させ、様々な耐久技術の開発を見据え、耐久性能の評価方法を明確化、能登半島地震を踏まえた対応を行っており、既設橋の高齢化やDX活用、自然災害の激甚化を背景に、安全性・耐久性の向上とライフサイクルコスト(LCC)の低減を目的としています。最大の特徴は「機能系統」という概念の導入です。上部構造を「主桁・主構」「床版・床組」「立体的構造保持」の各機能系統に分類し、それぞれの役割に応じた耐荷性能評価を行う体系へと刷新されています。単純合成鈑桁(支間33m)の試算では、新基準に基づき架設時・完成時の各限界状態(1~3)を照査しました。曲げおよびせん断に対して、所要の耐荷性能を満足することを確認しています。本発表が、新基準への適正な移行と合理的設計の一助となれば幸いです。

【技術発表(2)】

本発表では、耐候性鋼橋の耐久性および維持管理性の向上を目的として実施した各種検討結果と事例について報告します。まず、近年適用事例が増加している耐候性鋼用表面処理剤について、流れさびの防止や経年初期の外観改善といった利点に加え、塗膜の経年変化に伴う外観の変化や点検時に注意すべき点を整理し、沖縄で実施した暴露試験の結果を報告します。次に、耐候性鋼を裸仕様で用いた場合に見られる連結板の接合面におけるさび生成と連結板の反りの発生に着目し、ボルトの縁端距離および間隔が及ぼす影響について、連結部を模擬した試験体の暴露試験結果を通じて考察します。さらに、耐候性鋼の健全度評価を支援する手法として、実橋の3Dスキャンデータを基に作成したさびサンプルを紹介し、最後に、適切な環境条件とディテール選定により良好な状態を維持している橋梁の事例を取り上げ、LCCおよび環境負荷低減の観点から耐候性鋼橋の優位性を検証します。

【技術発表(3)】

新設高架橋工事の施工途中に、片側2車線から3車線(上下線で6車線)へ路線計画が変更されたため、詳細設計を再実施し、製作途中の鋼桁を改造して変更に対応しました。架設方法については、施工鋼重が約1.5倍に増加しましたが、大型クレーンを多用し、架設回数を当初計画と同様とすることで、交通規制等による周辺一般交通への影響を最小限にとどめました。

また、木津川河川上にかかる供用中の隣接橋梁(鈑桁+箱桁、PcaPC床版)の拡幅工事も同時に行うこととなりましたが、下部河川内ヤードが使用できない条件であったため、吊ビーム設備を上下線に跨がせて鋼床版桁を吊り下げ架設するハンガービーム工法により、2車線分の拡幅施工を行いました。